

Ⅳ-20 徳島市の都市計画史－戦災復興都市計画の変遷とその考察－

徳島大学 正会員 ○野田 昭子
 徳島大学 正会員 山中 英生
 (有)集環境計画 正会員 島 博司

1.はじめに

明治 22 年の市制町村制施行を日本の近代都市計画の始まりとすると、その後の都市計画史を変革期によって、いくつかの時代区分に大別することができるが、なかでもとりわけ大きな変革期となったのが、全国 191 万坪を焼失し、各都市において抜本的再建が図られた、戦後の復興都市計画期である。

本研究では、徳島市の都市計画史の中でも、特に戦災復興都市計画を取り上げ、その変遷を考察することにより、戦災復興都市計画が現在の徳島市の都市骨格に与えた影響を探ることをその目的とする。

具体的には、戦前の徳島市の概況と戦時下の罹災状況等を踏まえた上で、戦後の復興都市計画の全国的状況及びその中の徳島市の位置づけ、また徳島市の復興計画について、街路計画、公園緑地計画、土地区画整理事業などの視点から考察する。

2.戦前の状況

明治 22 年の市制施行当時、徳島市は人口 60,861 人の全国第 10 位の人口規模をもつ大都市であった。その後も隣接市町村と合併をくり返し、昭和 12 年の時点では、人口 124,626 人の四国第 1 位の都市であった。

都市計画については、昭和 3 年に徳島都市計画区域として認可を受け、昭和 8 年に約 1572.5ha において用途地域の指定がなされた。また、昭和 10 年には 47 本の都市計画道路が計画決定された。

3.罹災状況

全国で比較的大規模な被害を受けた 115 都市が「戦災都市」として指定され、徳島市も指定を受けた。徳島市の罹災面積は 220 万坪であり、これは全国の都市で 17 番目となっている。また、罹災率は約 73%、罹災人口は約 73,000 人、罹災人口率は 55% で、徳島市は全国的にみても、かなり甚大な被害を被った都市の一つであったことがわかる。

4.戦災復興土地区画整理事業

図-1 は戦災復興土地区画整理事業の昭和 21 年

の当初計画から、昭和 33 年の収束計画に至るまでの区域の変更を表している。当初計画では徳島市は罹災面積の約 1.3 倍に相当する約 280 万坪の区域が計画決定されたが、収束計画ではその 26%にまで縮小されることとなった。事業化された面積では中小都市の平均を上回るが、事業化率では中小都市は 67%に達するので、徳島市の事業化率が非常に低いことがわかる。

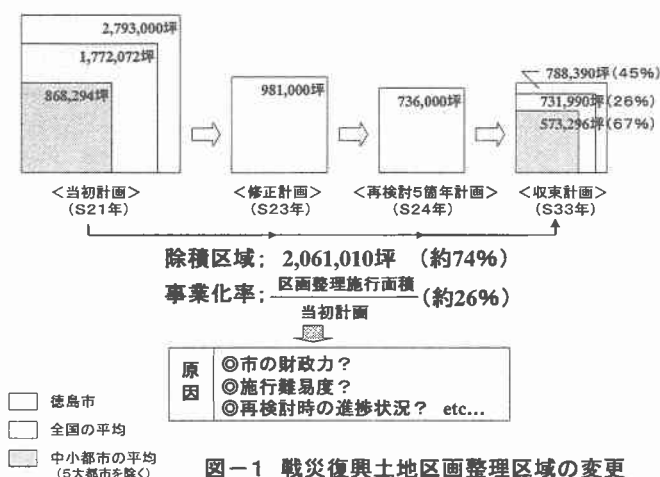


図-1 戦災復興土地区画整理区域の変更



図-2 戦災復興土地区画整理区域

図-3 は戦災指定都市の人口と事業化率を表したグラフである。四国 4 都市についてみると、徳島市は罹災時の都市人口は 4 都市の中で最も多いが、事業化率は他の 3 都市に比べて著しく低い。

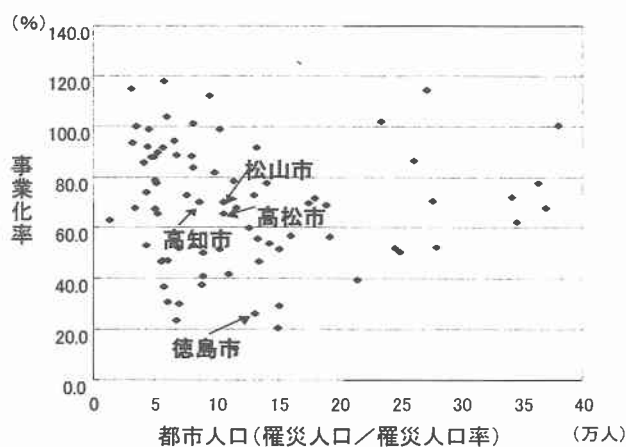


図-3 戦災指定都市の人口と事業化率

四国4市における年度別歳出額の推移を示したのが図-4のグラフである。戦前においては4都市ともにあまり大きな差はみられないが、戦後において除々に徳島市の歳出額の規模が4都市の中では小さくなっている。

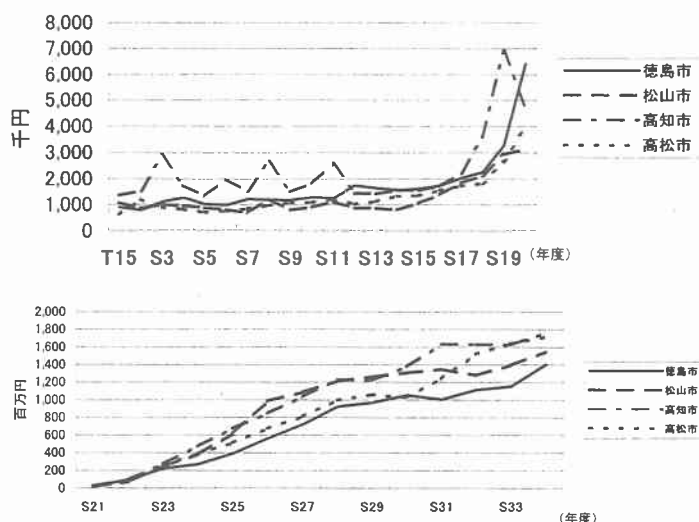


図-4 四国4都市における年度別歳出額の推移

5. 戦災復興計画

図-5は戦災復興公園緑地計画を表した図面である。戦後、特別都市計画法で緑地地域制が導入され、復興計画で初めて緑地が計画決定された。復興計画として、昭和22年から昭和33年の間に緑地が6ヶ所、一般公園が4ヶ所、児童公園が15ヶ所決定された。昭和53年までに復興計画以外で概成した公園は、近隣公園が1ヶ所、一般公園が3ヶ所、児童公園（現在の街区公園）が5ヶ所である。これは公園面積にすると、復興計画が一般公園では60%を、また街区公園については70%を占めている。

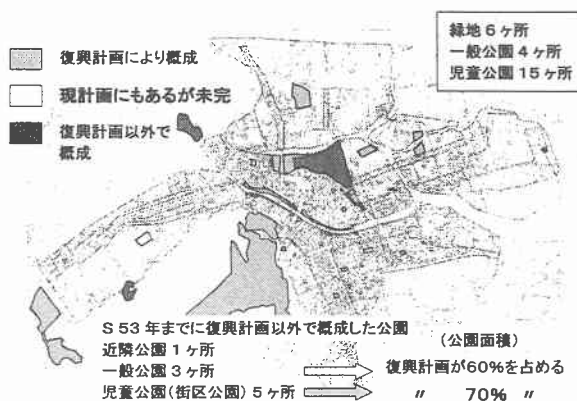


図-5 戦災復興公園緑地計画

図-6の図面は戦災復興都市計画道路について、現在の道路網との比較を行政地区別に表している。整備率は、徳島市の中心市街地である内町・新町・東富田・西富田地区では97.4%、その周辺地域である佐古地区では84.5%、渭東・渭北地区では62.4%となっている。

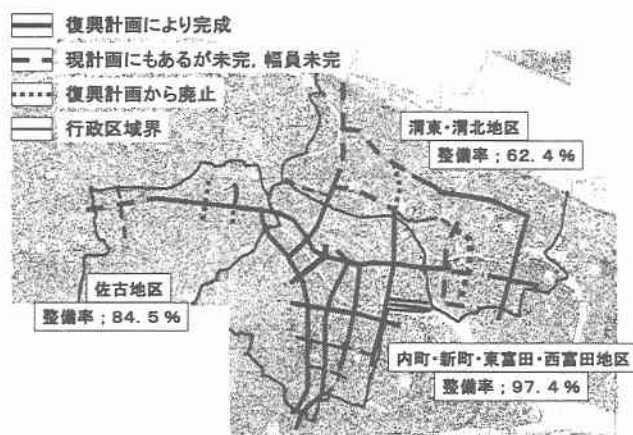


図-6 戦災復興都市計画道路の行政地区別整備率

6. おわりに

土地区画整理事業については、戦災復興事業以降、大規模な区画整理は行われておらず、復興計画が占める面積の割合は94%となっている。また、前述のように、復興計画が占める公園面積の割合は70%であり、街路計画については中心部の復興計画の整備率は97.4%であることから、戦災復興都市計画は徳島市の都市骨格の形成に大きな影響を与えているといえる。

戦前は大都市ではあった徳島市は、甚大な罹災を受けたにもかかわらず、復興計画事業そのものが充分に行われず、多くの未整備地域を残したことが、その後の徳島市の発展を妨げ、都市基盤整備が立ち遅れる原因になったものと考えられる。

【参考文献】 石田頼房：日本近代都市計画の百年，建設省編：戦災復興誌